

HIPPOLYTE-CAMILLE DELPY

イポリット=カミーユ・デルピー (1842~1910)



作品名 村の近くの池

種類 板・油彩・1903年作

サイズ 40.4×70.7cm

略 歴

フランス中北部のジョワニィに生まれる。

コローとドービニーに師事し、主題や技法に強い影響を受ける。

1869年のサロンで初入選し、以後定期的に出品を続け、

師と同様の主題であるオワーズ河やセーヌ河の夕暮れの風景を制作した。

初期の頃の作品はドービニーの画風に近かったが、

次第に独自の優美な画風を確立していく。

また、フォンテーヌブローの森でもたびたび制作しており、

《バ・ブレオーの檜の木》《森の眺め》などの作品を残している。

1884年、1900年のサロンで受賞、パリ万博にも出品している。

1886年からサロン・ザルティスト・フランセの会員。パリで没。

イポリット・カミーユ・デルピーの作品は師匠であるドービニーの作品よりは色彩が明るく軽快にリズムカルに整った色調である。淡い暮れなずむ空を川面に穏やかに映し鴨の家族が夕焼けに染まる様はデルピーの真骨頂である。オワーズ川やセーヌ川の夕暮れの風景を、師と同様の主題で描いたデルピー。穏やかに流れる川と村からは、夕暮れのゆったりとした時の流れを感じさせる。